

# 安心して自分の意見が言える会社のルールとは？

## 「心理的安全性」をつくる104問 何でも言える職場はどっち？

**「心理的安全性」をつくる104問**

**何でも言える職場はどっち？**

**成果が上がり、人間関係も良い**

**落ち込まない やる気が出る 安心する**

**心理的安全性で実現!** 池本克之

著者：池本 克之（組織学習経営コンサルタント）

ノンバンク、海外ホテル事業、生命保険代理店営業を経験後、通信販売のベンチャー企業の経営に参画。株式会社ドクターシーラボ代表取締役、株式会社ネットプライス執行役員を歴任後、複数のプロ経営者を経て現在は組織学習経営コンサルタント。大企業から創業間もないベンチャー企業に至るまで、継続的に成長する企業経営のアドバイスを行っている。著書『それでも稼ぐ人』33のルール―景気も、環境も、学歴も、年齢も、この人には関係ない』『「いまだき部下」を動かす39のしかけ―その「任せ方」、もう通用しなくて当然です。』（いずれも三笠書房）、『出社しなくても最高に評価される人がやっていること』（日本実業出版社）ほか多数。

<p><b>Answer 85</b></p> <p>仕事を覚えるためには、先輩のやり方を追って覚える、先輩から直接教えもらおう、というものもあります。ただ、それでは後に残らない、もし間違っていた場合に大変なことになさ、教える人のレベルが異なれば均一な教育できない、といったデメリットがあります。ですから、仕事を覚えるためのマニュアル「教科書」は絶対に必要です。教科書にすれば、後には残るうえ、間違っても教えたりはかまいませんし、均一の教育が可能になりますよ。</p> <p>教科書を添削する資格制度がある業界であれば、資格用のテキストを教科書として使いたいでしょう。</p> <p>一方、教育制度がない業界、もしくは業界共通のテキストや資格のテキストではない自社独自の業務が多い場合は、自分で教科書づくが必要があります。自社でつくるときは、もったも仕事ができる人、一番ノウハウを持っている人を中心としてつくることが不可欠です。教科書は、部署ごと、領域ごとに必要なので、それぞれ部署もしくは領域でもっとも仕事で</p>	<p><b>Dotchi? 85</b></p> <p>↓ 不要</p> <p>↓ 必要</p> <p>仕事の「教科書」は…？</p> <p>↓ 仕事の「教科書」は、絶対に必要</p>
---	--

### 〔目次〕

- 第1章 みんながほっとするの、どっち？
- 第2章 みんなが落ち込まないの、どっち？
- 第3章 みんなが助け合えるの、どっち？
- 第4章 みんなが仲良くなるの、どっち？
- 第5章 みんながやる気を出すの、どっち？

「Q.伝えたいことは…？ A.察してほしい/しっかり言葉にする」  
「Q.仕事の「教科書」は…？ A.必要/不要」など  
2択の質問104問への回答と解説で、  
心理的安全性の高い「誰もが言いたいことを言える職場」  
を作り、人間関係の悩みを解決するために  
必要な行動や心構えが分かります。

貴店番線印	注文	<p><b>「心理的安全性」をつくる104問 何でも言える職場はどっち？</b></p> <p>四六 / 328P / 本体1,500円 / ISBN : 9784426129279</p> <p>自由国民社</p>
	冊	